



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEE

'00 4月号

よみがえる村井弦斎



村井弦斎の家族：平塚の自宅縁側、大正元年頃

(弦斎夫婦と子供たち、左から長男誠一、二男忠次、三男賢三、三女芳子、長女米子、二女花子)

村井弦斎は、本名を村井^{ゆたか}寛といい、文久三年(1863)12月18日、三河吉田藩士村井清の長男として生まれます。明治五年(1871)、一家は東京へ移住します。そして、明治七年、若干11歳で東京外国語学校(現東京外国語大学)へ入学。明治14年、病気のため外国語学校を退学。その後、明治17年8月に渡米。一年半後の明治19年3月に帰国します。明治20年、報知新聞社へ入社。この時期から作家活動に入り、以後、60編を超える小説を執筆しました。特に、明治36年1月から報知新聞に連載した「食道楽」は、単行本となって、10万部を売った当時のベストセラー

です。明治39年、「食道楽」の印税により、東浜岳(現八重咲町・松風町)に一万六千坪余の土地を購入、小田原より転居(現村井公園一帯)します。以後、弦斎はここ平塚を舞台に活動し、昭和2年7月30日、自宅で没します。

博物館では、本年度、夏期特別展に仮称「村井弦斎」展を開催します。村井弦斎の人物像(由緒書、日記、書簡)、弦斎の作品(本、原稿、取材メモやノート)を中心に、新たに発見された写真等々を展示予定です。ご期待下さい。

刊行近い「湘南植物誌」

1985年から1990年にかけて刊行した「湘南植物誌 ~ 」は、この地域の植物に関する基礎資料として活用されてきましたが、すべて売り切れてしまい、購入希望の方にはご迷惑をおかけしてきました。このたび、その後の調査に基づいた改訂版を刊行できることになり、4月10日頃には受付に並ぶ手はずが整いましたので、ご紹介します。今回刊行される「湘南植物誌」には、湘南地域で記録された約1900種類の植物について、1990年代の調査に基づいた新しい分布情報と、見分けの難しい種についての分類の手引きが載せられています。これ1冊があれば、身近な場所にどんな種類があるのか、それぞれが多いのか少ないのか、その増減などについて概要を把握することができるでしょう。

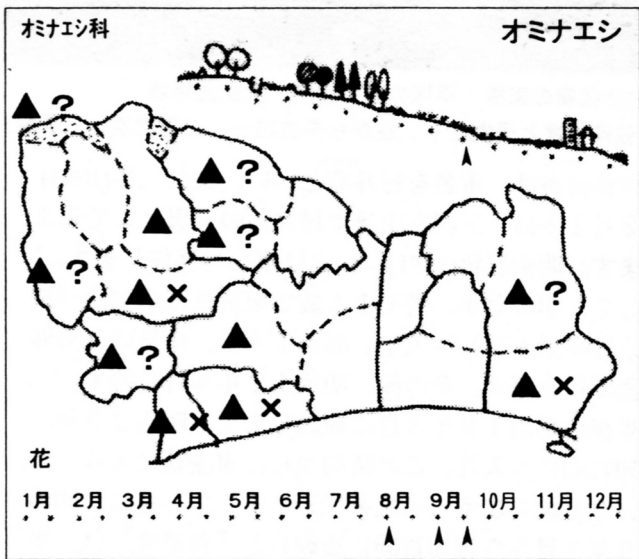
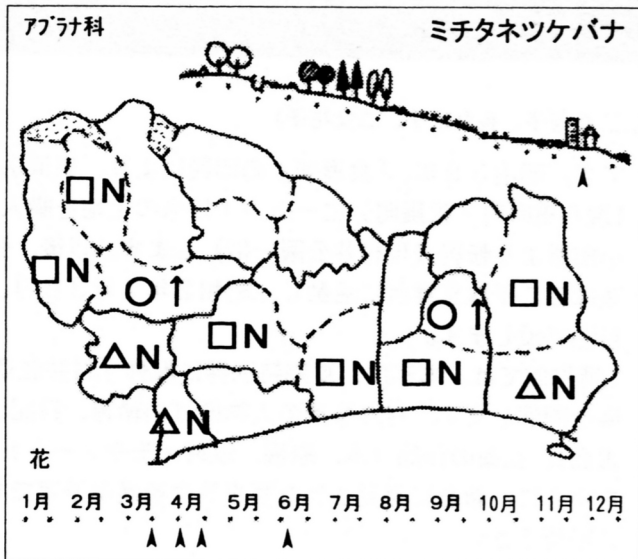
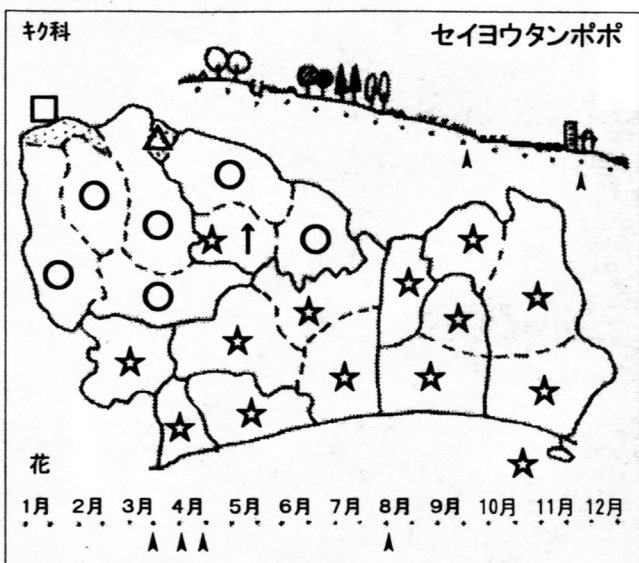
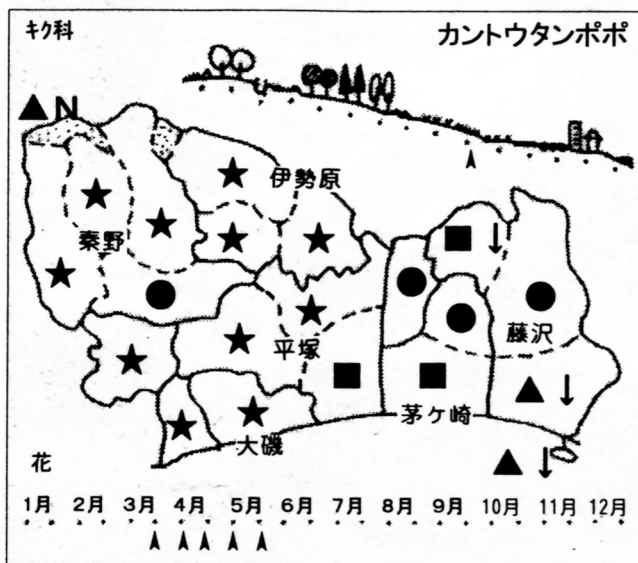
たとえば、春の花の代表と言えるタンポポについてみると、在来種のカントウタンポポは分布が黒いマークで示されています。マークの意味は多い順に、
 ○ 花
 ● 花
 ▲ 花
 □ 花
 △ 花
 × 花
 ? 花

特に藤沢では減少を示す ▲ が3つもついており、近年の減少が目立っているようです。帰化種のセイヨウタンポポは、白抜きのマークが使われており、およその状況としては沿岸部で分布が目立って多く、山沿いでは少な目であることが分かります。

また、3月の寄贈品コーナーで展示し、先月号のあなたと博物館で取り上げたミチタネツケバナでは、新しく記録されたNや増加を示す ○ が多くつき、近年著しく増えている種であることが分かります。

一方、分布図を見ていくと、減少が目立つ種もあります。その代表は秋の七草であるオミナエシで、この10年間で所在が確認できなかったことを示す ? 印が6ヶ所、絶滅を示す × 印が3ヶ所もつき、野生のものは壊滅状態であることが分かります。

このように、それぞれの植物の動向がきめ細かく示された「湘南植物誌」を、植物誌 ~ と同様に活用してください。(浜口)



特別展 星の地図・星の住所から

ヒッパルコス衛星の1/4スケール模型

今回の展示に関して、ヨーロッパ宇宙機関の展示企画支援部門の協力が得られ、オランダの本部よりヒッパルコス衛星の1/4スケールモデルとヒッパルコスのポスターが送られてきました。

ヒッパルコスは、欧州宇宙局が1988年に打ち上げた天体観測衛星です。この衛星には29cmのシュミット式反射望遠鏡が搭載され、全天の恒星写真の撮影を行いました。地上の望遠鏡では大気のせいでは画像がゆらいでしまいますが、大気のない宇宙空間では非常に鮮明な恒星写真が撮影できます。ヒッパルコスはこのメリットを活かした天体観測衛星で、この手法はハッブル宇宙望遠鏡へと継続されていきます。

ヒッパルコスは約4年間の観測作業で、100万個以上の恒星の光度測定、12万個以上の恒星の角運動量の測定など非常に多くの成果を挙げました。この成果は「ヒッパルコス全天星図」などとして刊行され、貴重なデータとなっています。

名称:ヒッパルコス (Hipparcos : Hlgh Precision PARallax COLlecting Satellite)

分類:科学衛星(天体観測衛星)

開発機関・会社:ヨーロッパ宇宙機関(ESA)

製造会社:マトラ・マルコーニ・スペース社

運用機関・会社:ヨーロッパ宇宙機関(ESA)

打上げ年月日:1988年8月8日

運用停止年月日:1993年8月15日

打上げ国名・機関:ヨーロッパ宇宙機関(ESA)

打上げロケット:アリアン4

1.どんな形をして、どんな性能を持っているの?

直方体のボディを持つ、総重量1.14トンの衛星です。口径29cm、焦点距離1.4m、視野0.9×0.9度のシュミット式反射望遠鏡が搭載されました。

2.どんな目的に使用されるの?

大気のないクリアな宇宙空間で精密な全天恒星図を撮影すること、個々の恒星の光度と角運動量の測定、銀河系の星の固有運動をスペクトル分析によって調査することを主な目的としていました。

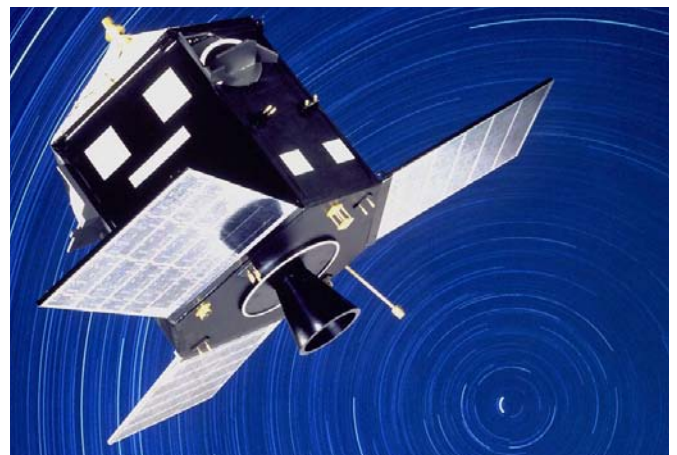
3.宇宙でどんなことをし、今はどうなっているの?

ヒッパルコスは、全天を2688に区切り、誤差1000分の2~4秒の写真恒星図の撮影を完成しました。また100万個以上の恒星の光度測定、12万個以上の恒星の角運動量測定、1万5千組の2重星の発見など多数の成果を挙げました。4年間にESAに送られた天文データの総量は、1テラビット(1兆ビット)にも及びます。ヒッパルコスは1993年8月15日に、コンピュータの故障によって通信不能になり、その使命を終えました。

4.どのように地球を回るの?

静止衛星軌道まで打ち上げられるはずでしたが、ブースターの故障で低い高度に止まり周回衛星となりました。

(宇宙開発事業団の資料より作成)



太陽に近い星の分布模型

展示室の奥の方に、赤やだいたい。白、といった色とりどりのランプが輝く、「100光年以内の星たち」という模型展示があります。

ヒッパルコス衛星の観測から作られたTycho星表をもとに作成した、太陽から100光年以内の4等星以上の星、195個の三次元分布模型です。使用した座標は太陽を中心とした赤道直交座標です。向かって右が北、手前が春分点の方向になります。

わたしたちになじみの深いベガ(おりひめ)、アルタ

イル(ひこぼし)、シリウス、アルデバラン、カペラ、アークトゥルスなどもこの範囲の中に見つけることができます。

ここに光っているほとんどの星は太陽の数倍から百倍も明るい大きな星です。星の色も白から赤い星の比率が高く、青い星は見あたりませんでした。

なお、特別展は4月9日までです。

博物館カレンダー

2000年4月

1	土	☆	寄贈品コーナー「人文新資料」 (~4月30日)	展示室
		☆	プラネタリウム「全天88星座」 (~4月23日)	プラネ室
6	木		展示解説ボランティアの会	特研究室
7	金		古文書講読会	講堂
8	土	◎	漂着物を拾う会	虹ヶ浜
9	日		地質調査会	野外
13	木		石仏を調べる会	野外
14	金		古文書講読会	講堂
15	土		地質調査会	科学室
16	日	◎	ろばたばなしの会	展示室
		○	体験学習「家紋風を作ろう」	科学室
19	水		裏打ちの会	科学室
			地質調査会	特研究室
20	木		展示解説ボランティアの会	特研究室
21	金		古文書講読会	講堂
22	土		空襲と戦災を記録する会	特研究室
		○	こども観察会「春の川」	相模川
			天体観察会「ガイダンス」	科学室
23	日		古代遺跡を探す会	野外
			相模川の生い立ちを探る会	科学室
27	木		石仏を調べる会	特研究室
28	金		古文書講読会	講堂
29	土	☆	プラネタリウム「さよなら、お月さま」 (~7月16日)	プラネ室
30	日		民俗探訪会「説明会」	講堂

2000年5月

3	水	☆	寄贈品コーナー「自然新資料」 (~6月4日)	展示室
6	土		天体観察会「星の写真」	函南
7	日		地質調査会	野外
			天体観察会「星の写真」	函南
11	木		石仏を調べる会	野外
			プラネタリウム「幼稚園投影」 (~7月13日)	プラネ室
12	金		古文書講読会	講堂
		◎	星を見る会「月を見よう」	屋上
13	土	◎	漂着物を拾う会	虹ヶ浜
			地質調査会	特研究室
17	水		裏打ちの会	科学室
18	木		展示解説ボランティアの会	特研究室
19	金		古文書講読会	講堂
20	土	○	みんなで調べよう「カタツムリ」	科学室
21	日	◎	ろばたばなしの会	展示室
24	水		地質調査会	特研究室
25	木		石仏を調べる会	特研究室
26	金		古文書講読会	講堂
27	土		空襲と戦災を記録する会	特研究室
			相模川の生い立ちを探る会	野外
28	日		古代遺跡を探す会	野外
			民俗探訪「城前寺傘焼き祭り」	小田原
		○	自然観察会「アオバトの観察」	照ヶ崎

☆寄贈品コーナー「新しい資料<人文資料>」

最近の収集資料から人文分野の品を紹介します。

会期：4月1日(土)~4月30日(日)

☆プラネタリウム「全天88星座」

いままで紹介できなかったマイナーな星座や平塚で見えない南天の星座まで一挙紹介します。

期間：3月4日(土)~4月23日(日)

*土日の11時と14時 *観覧料：1人100円

◎漂着物を拾う会

日時：4月8日(土) 9時半~11時

場所：虹ヶ浜海岸

申込：自由参加ですが、初めて参加される方は往復ハガキで申し込んでください。集合場所等案内をお送りします。

◎ろばたばなし

相模地方の伝説と昔話を語ります。

日時：4月16日(日) 13時30分、15時

場所：1階展示室民家 参加自由

○体験学習「家紋風を作ろう」

平塚家紋風保存会の指導で家紋入りの角風を作ります。

日時：4月16日(日) 10時~16時

場所：科学教室

参加費：500円

申込：往復はがき(定員20名)

○こども観察会「春の川」

相模川の川原で春をさがします。

日時：4月22日(土) 13時30分~16時

場所：馬入・相模川

申込：4月10日までに往復ハガキで

(小中学生と保護者に限ります)

☆：展示(無料)・プラネタリウム(観覧料) ○：申込制 ◎：自由参加 無印：年間会員制

あなたと博物館

25巻 1号 通巻279号

発行 平塚市博物館 3000

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 TEL:0463-33-5111 FAX:0463-31-3949